

『向きを変えて出発』

申命記 1 : 6-8

■ ありがとうの力

感謝のことば「ありがとう」には心に喜びを与える大きな力があります。与えるという行動は赤ちゃんが自らの意志で最初に行うこと、神様によって人間に本来与えられた思いでもあります。「はい、どうぞ」から「ありがとう」へと喜びが人と人の間に行き来するように、1年の始まりである元旦に感謝で始め、大晦日に1年の終わりを感謝で終わる。神が与えた節目に、私たちは自らをふりかえり再スタートができます。感謝、恵みを振り返ること、これは聖書の恵みであり、願いなのです。

■ ろくでもない人間の愚かさ

神様は向きを変えなさいと言われていました。聖書に出てくる出エジプト後のイスラエルの民は、神がエジプトに下した10の災いや、紅海を二つに分けるといった奇跡を目の当たりにしたにもかかわらず、すぐにそれらを忘れて不平を言いました。エジプトの地から出て行く時に神様はエジプトの民みんなが頑なになっていたのを悲しんで多くの奇跡を通して彼らが気づくように教えました。民たちは、モーセとアロンに「お前たちがなぜリーダーなんだ」と文句を言ったのです。ろくでもないこの姿を通して、聖書は人間の生き方というものは、どんなに神様が『向きを変えて出発しなさい』と言われても変えることができない弱さを持っていることを教えているのです。

■ 神の思いと人間の弱さ

何度も神様と向き合っては大きな問題が起き、耐えられなくなった民に神様はモーセを立てて、約束の地に入れるように向き合いました。しかし、約束の地へは入ることができず、カレブとヨシュアだけが入ることができました。そして新しい子孫だけがその地に入ることとなったのです。聖書で、この教訓を再び教えるのは、私たちのためです。私たちは自分の大切なものを自分の歩き方のせいで失っていき、そしてそれがなくなった時に誰かのせいにする生き方になっているかもしれません。

しかし、私たちの視線が自分の大切なものを失っているということを知る必要があるのです。申命記で神はイスラエルの民に「向きを変えて出発せよ」と命じました。しかし民がしたのは金の子羊を作り祭壇を築くことでした。民の文句に疲れ果てたアロンの妥協から間違っただけを選んでしまったその姿は、まさに変わることをしない私たちの生き方です。「うなじのこわい民」(出 32:9) それは本来すべき正しい決断ができず間違っただけをする生き方だと教えています。神様の事はよくわかるし、教会にも来ているが、ずれてしまったり、誘惑がきたりと、環境や妥協で間違っただけを決断してしまう自分はいないでしょうか。今年こそ同じやり方、同じ生き方を捨てたいのです。

■ アロンのその後の生き方

アロンもモーセを待って疲れていたのかもしれませんが。実際

にモーセに問い詰められたときに言い訳をしている様子がわかります。妥協と投げやりな心は後になって大きな崩壊へと繋がってしまうのです。しかし、いつの時代も正しいものに従おうとする人たちがいます。アロンも例外ではありませんでした。聖書にはアロンは失脚するのではなく悔い改めてもう一度モーセについていく姿があります。そして、アロンは長寿を全うし民に30日間追悼を受けて天にかえっていきました。聖書はその人の最期をもって生きざまを現わしています。失敗を繰り返して、時に間違っただけの行動をしても、向き合って改める姿から神はアロンを建て上げていったのです。

■ 牧師になったアポロ13号飛行士

彼は月から小さくなっていく世界と、あまりにも大きな宇宙を知り、こんなちっぽけな自分すらも保たれている神様を感じました。月から還った自分が称賛されても高ぶるのではなく、むしろ、自分を造りすべて与えてくださった神の素晴らしさを伝える者でありたいと牧師になったのです。聖書の恵みは誰かを変える恵みではなく、自分を変えてくれる恵みなのです。ご利益を求める“Religion”から、神との関係“Relation”へと変えていきましょう。言い訳する生き方をやめ、自らの過ちを認めて「ごめんなさい」と悔い改める道を選びましょう。私たちが自分を変える祈りを捧げる時、神は私たちを新しく造り変えてくださいます。神様が与えてくださるものは決して変わりません。変えるべきなのは私たちの革袋なのです。神の願いの中で私たちはどのように生きるのかを選ぶことができます。同じ問題を繰り返す中で、神は「どうになりたいか」と言われています。生き方を変えようと願う私たちの心に神様が働いてくださいます。

最後に

『主は、私たちの成り立ちを知り、私たちがちりにすぎないことを心に留めておられる。人の日は、草のよう。野の花のように咲く。風がそこを過ぎると、それは、もはやない。その場所すら、それを、知らない。しかし、【主】の恵みは、とこしえから、とこしえまで、主を恐れる者の上にある。主の義はその子らの子に及び、主の契約を守る者、その戒めを心に留めて、行う者に及ぶ。【主】は天にその王座を堅く立て、その王国はすべてを統べ治める。【主】をほめたたえよ。御使いたちよ。みことばの声に聞き従い、みことばを行う力ある勇士たちよ。【主】をほめたたえよ。主のすべての軍勢よ。みことばを行い、主に仕える者たちよ。【主】をほめたたえよ。すべて造られたものたちよ。主の治められるすべての所で。わがたましいよ。【主】をほめたたえよ。』詩編 103:14-21

神がなさそうしている奇跡を受け取ることができますように。すばらしい2026年を迎えるために、感謝と喜びを心に満たすことができますように。神様が与えてくださった数々の素晴らしい恵みを数え、この一年間神様がしてくださったこと、そして私たちの願いをどのように変えてくださったかを覚えながら、ともに喜び合うことができますように。祈りを与え、喜びを与えてくださる主の恵みの中を歩む一年となりますように。

(要約者: 西寄 真由美)

(2025年12月28日)